

ホーチミンからプノンペンへ陸路で行った

4月25日～30日まで、ベトナムのホーチミンからカンボジアのプノンペンへ行きました。飛行機はLCC（格安航空会社）、行きはティーウェイ航空（韓国の仁川で乗り換え）、帰りはベトジェットエアでした。

ホーチミン⇄プノンペン間は、往復ともに陸路の旅でした。乗ったのは私営の国際バスです。行きはベトナムのモックバイのイミグレーションで出国手続きをして、次にカンボジアのバベットにあるイミグレーションで入国手続きをしました。カンボジア入国には、パスポートの他にeビザが必要でした。バスは片道約8時間の旅です。バスの座席は3列で背もたれも倒せるので快適でした。

気候はとても暑かったです。気温は30度以上で、湿気もあります。歳をとっているのに、熱中症にならないかと心配しました。暑いので昼間はホテルにいて、夕方から街を散策しました。（下の話で済みませんが）今回は久しぶりに下痢をしました。75歳になっての海外旅行は無理なのか、と今回の旅で初めて実感しました。

ホーチミンでもプノンペンでも、外国人（旧宗主国のフランス人が多い）の旅行者は多いです。しかし、日本人の旅行者にはほとんど会いませんでした。帰りの国際バスの中で、一人の大学院生の日本人男性と一緒にになりました。彼の話では、町にあるATMで、現地のお金を下ろせるそうです。海外旅行の仕方も大きく変わりました。今はクレジットカード（デビットカード）とスマホやパソコンが旅の必需品です。アナログ人間の私にはついていけません。

負の遺産 キリング・フィールド クメール・ルージュ（ポルポト政権）の大虐殺

プノンペンでは、キリング・フィールドへ行きました。私が行ったのは、チュンエク大量虐殺センターです。慰霊塔を中心に、博物館や大量埋葬地があります。慰霊塔の中には、犠牲になった人の頭蓋骨が展示されています。

カンボジア大虐殺（だいぎやくさつ）は、カンボジアで急進的に共産主義を推し進めた、カンプチア共産党のポル・ポト率いるクメール・ルージュが引き起こした組織的迫害かつ虐殺です。1975年から1979年の間に150万から200万人が犠牲となりました。これはカンボジアの1975年当時の人口（約780万人）の約4分の1に相当するとも言われます。

クメール・ルージュは中国の文化大革命を模範にして、農村社会主義を実行しました。その目標を達成するために、クメール・ルージュは都市を空にして、教師や公務員等の多くの知識人や都市の住民を地方の強制労働収容所に移転させました。そこでは、大量処刑、強制労働、身体的虐待、栄養失調、病気が横行しました。収容された者はキリング・フィールドに連行されました。知識人・伝統文化継承者・教師・宗教者などは反革命的な者とみなされて次々と殺害されました。（出典：フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』）



【プノンペンから約3時間の田舎の街コンポッチャム（カンボジア）】（2024年4月27日撮影）



【キリング・フィールドの義死者の展示（プノンペン・カンボジア）】（2024年4月28日撮影）

◇是非、福島へ来てください。被災地を案内します。

携帯：090-5300-4664

メールアドレス p-mia08@outlook.jp